

讀書會のすゝめ

特249

395



兵庫食糧叢書第六輯



始



特 249
395

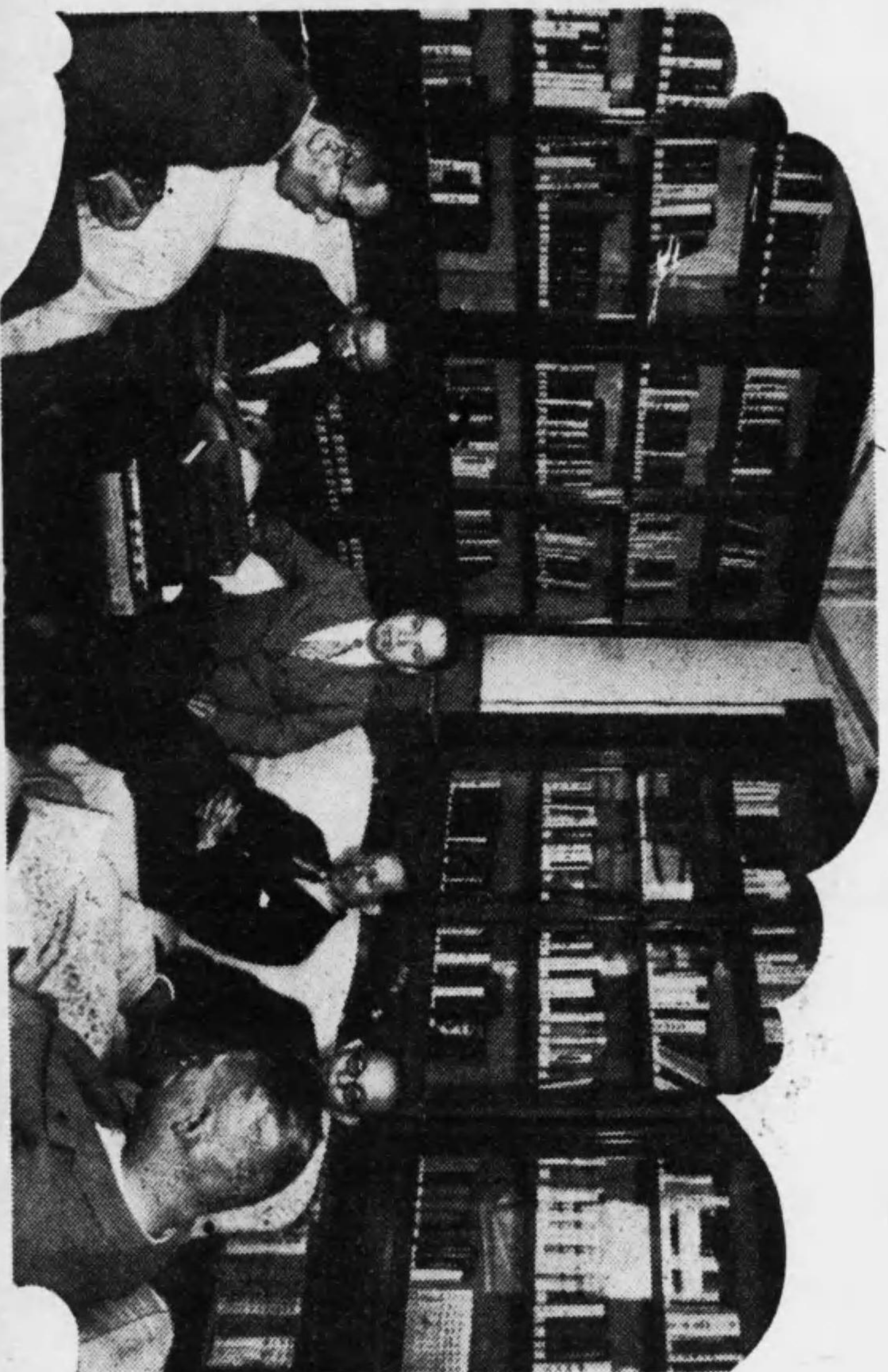


読書會のすゝめ

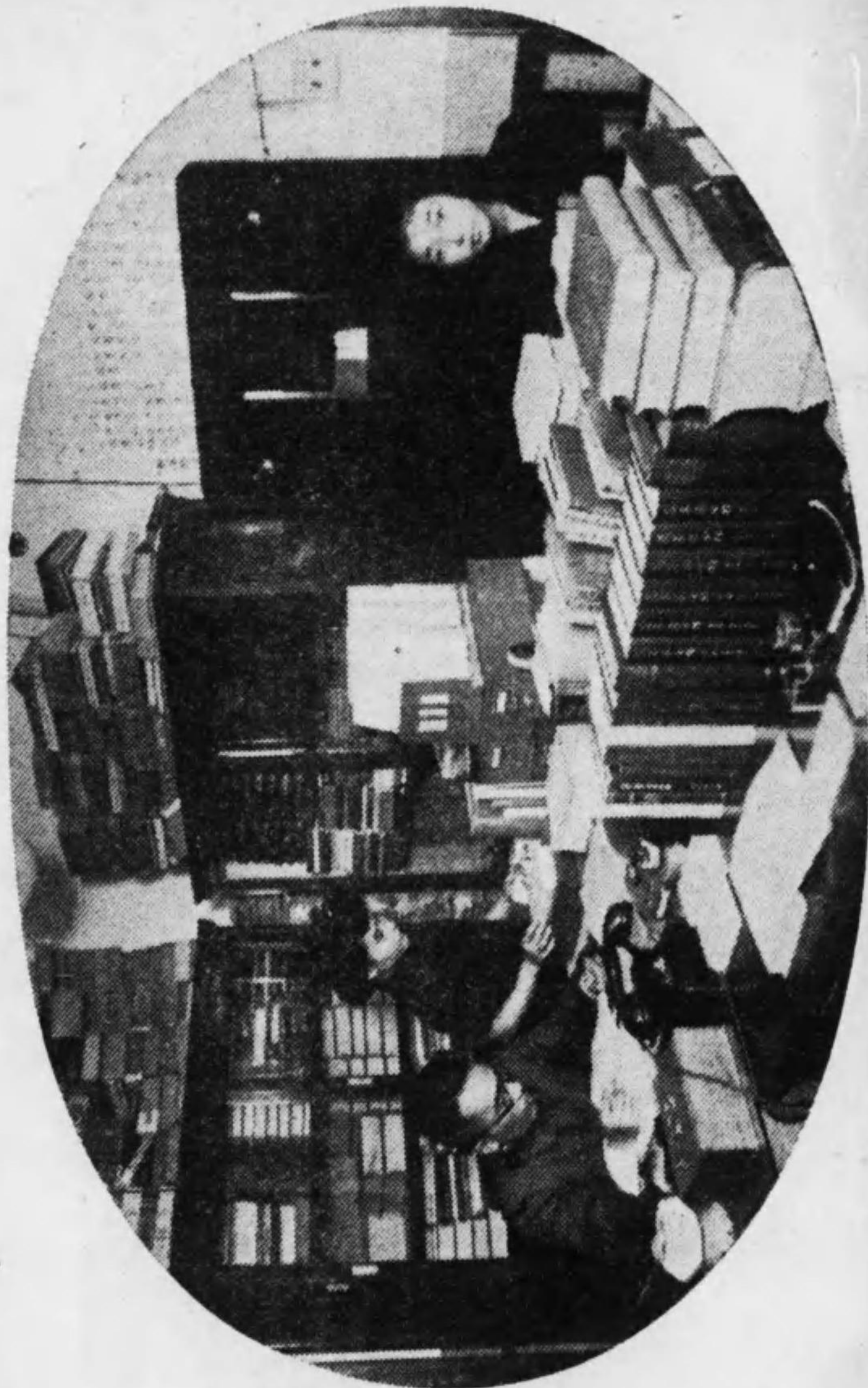
【兵庫食糧營叢書第六輯】

兵庫縣食糧營團發行





警團の食糧文庫と圖書についての集り
左から三人目直木理事長 四人目平佐顧問 六人目香西
健成課長 二人目坪野調査課長 左端食糧文庫榎本氏



食糧文庫の事務をとる人々

序

教養と言ふことが、如何に戦力増強と密接な関係をもつものであるかと言ふことは、戦力をたゞ單に航空機や弾丸だけと考へるやうな人でない限り、はつきり理解せられてゐるのでありますが、この關係が根本的であるためにさもすればゆるがせにせられ易いのであります。單に勞力の機械的使用と言ふ風にさへ見られ易い工員の場合に於ても、現にこの文化練成と言ふべき教養を、若い養成工に與へるため、毎日貴重な數時間をその讀書指導のために割いてゐるやうな例のあることは、教養と戦力増強との深い關係を如實に示してゐるのであります。まして生活必需物資配給の如き、人と人の關係が重視せらるゝ方面に職を奉ずる者にさりましては、教養の重要性は今更説くまでもないことであります。

教養にとつては、讀書指導ほど今日急務とせられてゐるものはないのであります。同時にこれほどまた研究と實驗とが未完成のまま、放置されて來たものはないのであります。

こゝに讀書指導のしるべの一端にもと考へまして、わが營團に於ける施設並に考案を輯録して公にいたしました次第であります。これによりまして教養と讀書についての營團の意圖がおわかり下さいます。讀書を通じて一層戦ふ營團人としての人格完成にお勵み下さいますならば、これに過ぎたる歡びはないのであります。

昭和十八年十月

兵 庫 縣 食 糧 營 團
理 事 長 直 木 太 一 郎

目次

序文

營團の食糧文庫と圖書についての集り(寫眞)

食糧文庫の事務をとる人々(寫眞)

讀書會のすゝめ

直木理事長の讀書觀斷片

【第一篇】決戦下の讀書を語る座談會にて

【第二篇】讀書に關する座談會にて

營團の讀書施設

三五

二六

二

二

一



讀書會のすゝめ

戦争と讀書

人はパンのみにて生きるものに非ずと言ひます。パンの方なら御手のものゝ私どもでも、心の糧の方は又別です。高いものへの憧れに燃えながら、ものを見、ものを聞き、ものを考へる——この心の生活にとつてなくてはならぬ必需品の一つは讀書です。書物が修養の爲とか娛樂の爲とかに必要だつたのは昔の事です。今では生活の爲に必要なのです。讀まれる本の質と量と、これを讀む人の數とは一國文化の水準を示すといはれます。

私達は今大東亞戦争を必死に戦つてゐます。世界史を根こそぎにするやうなこの大戦争は、文字通り生

活を擧げての戦争です。生活の戦争は又文化の戦争です。健全な高い文化が結局物を言ふのです。日本の文化がアメリカの文化を壓倒しなければならぬのです。戦ひの日にも私達は文化を高め文化を純粹にする努力を怠つてはならぬのです。それにこの逞しい讀書慾は何といふ頼もしさでせう。寝る間も惜んで働き抜く國內に、出しても出しても本が足らぬ、古本屋の棚が日毎に淋れる、入手難をかこつ聲が切實になる——全く壯觀です。

この情勢に應じて出版界では注文買切制といふ新しい方式をはじめました。これで一寸勝手がちがつて來ます。これまでのやうに本屋へ行けば大ていの新刊が買へるといふ具合に行かぬこととなります。讀書家の方でも、この書物の貴重な時、紙の大切な時、金があつて暇があるからといつて欲しい本をみんな一本づゝ備へつけて、之を獨占するといふ事が道義的に許されぬ——つまり一種の戦時讀書道義とでもいつたものが要求せられる譯になります。本はどしどし讀まねばならぬ、が欲しいだけ占有してはならぬといふ板挟みに追ひ込まれるのです。どうしても一工夫しなければこの兩難をのがれることが出來ません。そこで考へられるのが讀書の共同化といふ事です。會社工場などが最近しきりに圖書館施設を急いでゐるのもその現れです。目新しい所では隣組文庫の計畫などが傳へられてゐます。

營團では以前から巡回文庫が作られて居り、別に食糧關係の文獻を中心とする専門圖書室といふ異色あるものを組織的な方法で進めて居り、更に又修練道場に於いては日本傳統の諸道關係、趣味、教養の圖書を集めた修練文庫が開設せられ、既に盛んに利用せられて居ります。その外にも兒童文庫、厚生文庫などの計畫があつて、地域的に同時に職域的であるといふ營團の特殊な性格に適合するやうな施設が次から次へと考へられてゐます。此等は今後愈々充實せられて行きますから先づ設備の方は目鼻がついてゐると言へるのです。残る所は讀書人側の問題で、これをこゝに提唱する讀書會といふ形で體制を整へようといふのです。

讀書會のねらひ

獨り讀み獨り思ふ樂みはまことに深いものです。しかし共に讀み共に語らふ喜びは又格別のものです。獨りでは氣づかずに讀み過す大事な所を氣づかされたり、獨りよがりの浅い讀みで紙背に徹しない所を教へられたりすることもあれば、古典などの讀みづらいもの、哲學物などの難しいもの、長い物で根氣のつづきにくいものなどでも一緒になら讀みこなし、讀み切ることが出來ます。殊に讀みを深く鋭くするためには、どうしても何人かが一緒に考へながら讀む事が必要なので、その中に指導者ともいふべき人がある一段と効果的です。だから從來學究の間ではこの方法が盛んに行はれて來たものです。これは讀書の喜

びと深みに即した讀書會の効用ですが、一方では前に述べた書物入手の困難に對する解決策としての効果があります。その上讀書人の清らかな心の交りといふものがこれによつて一層深められ、鞏固な文化的結合がはたされるといふ得が大きいのです。營團の中のつながりが外とのつながりを持ち、そして國家的なつながりに發展するのですから思つて見るだけでも心が躍ります。一石二鳥所か、讀書會のねらひは實に一石數鳥なのです。

讀書會の運用

それでは讀書會はどんな風に運営せられるべきでせうか。大體三つの行き方があります。第一は教室風とでもいひますか、或るテキストについて指導者が講義をし、これについて質疑應答を行つて研究を進めて行く講演會です。これには會員が同じ本を一冊づつ持たねばならぬし、適當な指導者が必要でもありませんので一寸手軽く参りません。第二は會員が一つのテキストについて輪番に一部分宛を受持ち、受持つた部分についてこれを指導者として講演し、これを中心に共同研究をつゞけて行くやり方、輪讀會とでもいふべきでせうか。これにも皆が一本づつを備へなくてはならぬといふ困難が伴ひます。

以上二つの方法は行き届いた読み方が出來て望ましいものなのですが、書物が手に入り難い今の情勢で

は先づ實現が困難といふ譯になります。そこで第三の行き方、そして今特に提唱したいと思ふやり方は讀書常會といふ形のものを中心とする運営です。これによると會員は各自思ひ／＼に好みの本を讀んで行くのです。そして定期又は臨時に開かれる讀書常會に出席してその席上

一、讀書報告 自分の讀んだ本の梗概を紹介したり、讀後感を發表したり、つまり讀書報告を行ひ、これについて全員が語り合ふ。

二、讀書計畫 各自がこれから讀まうとする本について或はその読み方について發表し、これについて皆が意見を出す。

三、讀書相談 こんな方面の事を知り度いのだが、どんな本がよからうかなどといふ相談をして衆智をあとめて適切なものを選ぶやうにする。

四、書物斡旋 こんな本を搜してゐるのだが誰かその所在を知らぬだらうか、何々を讀みたいが誰か貸してくれまいかといった風に相談して本の融通斡旋をする。

五、讀書法研究 どんな風に讀むのがよからうといふ相談をし研究をする。
といふ具合にやるのです。

讀書報告は讀書を批判的にし、整理するといふ意味で讀みを深くし、讀んだものを身につける上に最も都合がよろしい——讀み放し、讀み棄ててではその効果に於いて雲泥の差があります。一方ではこの報告を聞くことが又頗る有り難いものなのです。讀んでこなしたエキスを頂戴する譯ですから、勞せずして味を占めることになりません。それが嘗て自分の讀んだ本となると又一入です。話に花が咲く所です。讀書計畫が前以つて分ると、特にこの方面に注意して讀んで貰ひ度いといふ註文もつけられるし、更に會全體としてこの計畫が統一的に指導せられると、各自の分擔によつて一度にまとまつた研究も出来るといふ譯です。讀書相談は、指導者が特にある場合には讀書指導と呼ばれるやうに、讀書の指針を得るために大切なものです。つまらぬ本にひつかかつてむざ／＼と時間や勞力を浪費するばかりか、間違つた方へ迷ひ込まれるといふ事はよくある話です。この方面なら此本といつた風に、よい本、標準になる本、權威のある本を選ばねば無益なばかりでなく有害なのです。指導者なしにでも三人寄れば文珠の智慧で、何とか相談になるものです。常會で書物の融通斡旋をすることは殊に窮屈な出版事情に即して最初からの大きなねらひ所なのです。全員が各自の愛藏書を會に開放して希望者に貸し出しすると、忽ちにして共同分散文庫といつた風のものが出来上ります。殊に新刊を買ひ入れる段に豫め相談し合つて、自然に一種の統制が行はれると、全く戦時出版體制に適應する購書體制が布かれることになります。その外欲しい本の在りかを教

へて貰ふだけでも全く有難い上に、不要書の交換會までも出来ようといふ仕組みです。讀み方にも色々工夫のあるもので、自分の體驗を語り合ふだけでも相當の研究になります。かうして相互に助け合ひ啓發し合つて行くのが建前なのですが、中に指導的立場に立ち得る人があると、その運営は一層效果的になります。常會がそのまゝ講讀會にも輪讀會にも振りかへられるし、同じやうに讀書報告をしても讀書計畫を樹てゝも、中心が出来て會全體のまとまりがつかます。

常會の事業としては又、「誰々に物をきく會」といつたものも考へられます。適當な先達をつかまへて來てものをきくのです。

かうして精進し合ふ讀書人の結合から淡くて清くて深い君子の交りが生れるでせう。これが營團の鹽になつて營團を支へて行く力になること、そして大きいへば日本の力になつて行く事が究極の目的です。

讀書會の組織

以上で讀書會の性格が大體はつきりしたと思ひますから、今度はその組織を考へて見ませう。勿論かうした風の事には強制など出来もしないし、しても何にもなりません。どうしても同好同志の結合でなければなりません。讀書家と呼ばれる種類の人々は固より、これから本を讀まうといふ人々が大いに歓迎せら

れます。むしろこれから読むといふ人の方が大切だともいへませう。そしてなるべく地域、職域、或は年齢、性別、時には趣味、読書力などの条件に近い程よいでせう。人数は五、六人から二十人まで位が一單位となるのに一番手頃でせう。多過ぎると運営が難しくなります。むしろ読書の趣味を普及するといふ文化運動の建前からいふと、最初は小人数で、ふくみを大きく残しておいて、次第に周囲に働きかけて同志を獲得して行くといふのが望ましいでせう。

さてかうして出来た小さい読書群の單位を一つの読書會と呼びます。たくさん出来ることが豫想せられますから、區別を立てるために夫々が固有の名をつける必要があります。毎月十六日の晩に定例常會をする會だから「十六夜會」と稱するとか、中道配給所をつくつた會だから「中道會」とつけるとか、或は詩を中心に読むといふので「詩の會」と呼ぶとか——色々いゝ名が出来るでせう。

かうして會名が出来ると常會の定例日とその會場（會員の宅を輪番に廻るなども面白い）時間などをきめます。一定の世話人とか代表者とかを定めておくのは何彼につけて必要です。その外必要と思はれることを取りきめていよく實施にかゝればよい譯です。

かうして読書會が出来上りますと各出張所、支部にあつては夫々その長を経て、又本部にあつては直接何れも厚生部長宛に結成届を出して頂きます（鍊成課主管）。その書式は自由ですが、會名、世話人又は

代表者氏名、受信の場所、會員數（氏名をも記載すれば一層都合がよろしい）、定例常會日時、その他必要と思はれることを書き込んで頂きます。これで結成の手續が一切完了したといふ譯です。

読書會の育成

読書會運動の一つのねらひが、窮屈な出版事情に對應して營團全體の読書相談、読書指導のほか書物入手の斡旋にあつたことは前に申述べた通りです。どんな風にしてこれが行はれるか。先づ出張所、支部に於いては読書會に關する通信、連絡とか、會場とか、書物の受取り選り出し等の世話とか、その他物心兩面に於いて出来るだけの援助が頂けることになつてゐます。本部の方は調査課、企畫課（食糧研究室）鍊成課その他關係課が一體となつて次のやうな斡旋を行います。

- 一、読書相談
- 二、読書指導
- 三、書物斡旋
- 四、読書普及運動
- 五、其他

右のうち読書相談は通信で、読書指導は通信及び都合によつては係員が出張して、書物の斡旋は直接又は通信で行ひます。最後の項はつまりこのやうな本が読み度いが手に入れて欲しいといふやうな註文があれば、營團が出来るだけその申入に應ずるやうに努めるのです。會の方で買入れるといふ場合でも、又は營團の備本を借り度いといふ場合でも、或は新に備付けて貸して欲しいといふ場合でもです。読書普及運

動としては、各讀書會代表者の常會、研究會、講演會、見學、展覽會、讀書調査、藏書調査などが考へられます。このやうな催しが本部の圖書室などを中心として行はれることになる。と讀書人にとつてはまことに嬉しい事であらう。事務的には一元化する爲に讀書會關係の連絡を一應鍊成課にまとめます。會として色々な註文や照會やはみんな鍊成課宛に出して頂きます。

讀書會の將來

今の所各單位讀書會がそのまゝ群がり立つわけですが、將來各出張所支部に澤山結成せられる際には、これを系統的に組織して、各出張所、支部に〇〇讀書會といった一種の聯盟式の中核體を作つて行きます。營團の機構に即した中間單位が出来て、こゝでも亦適當な連絡や、事業が行はれるやうにするつもりです。かうなつて來ると營團そのものが立派に組織された文化團體となります。この際物をいふのは地域的で同時に職域的な營團の特殊組織です。全縣下に組織網を布く一元的な鞏固な文化團體なんでもは先づ營團を措いて外につくれないかとさへ思はれます。そしてこの文化的活動によつて營團は營團人の人格を磨き上げ、そして消費者との接觸に於いてその力をはたらかせることによつて、營團本來の使命を完遂するに足る一般の信頼感も得られるといふものです。

——昭和一八、九、一〇——

直木理事長の讀書觀斷片

次の座談會記録第一篇は神戸市教導課主催、第二篇は同市觀光課主催にかゝるもので、共に直木理事長の讀書に關する豊かな識見抱負を窺ひ知らるゝの他の參會者が何れも此の方面に於ての權威者ばかりで併せて御参考に資し度いと存じまして以下掲載致しました

(第一篇)

決戦下の讀書を語る座談會にて (速記抄録)

主催 神戸市教導課

於 神戸三越文化圖書室 (昭和一八、六、一六)

語る人（順序不同）

| | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------|------------|---------------|------------|---------------|--------------|------------|----------------|----------|---------------|----------|
| 寺澤智了氏 | 山下紋次氏 | 笠原正一氏 | 北阪壽治氏 | 門廻與勝氏 | 五十嵐播水氏 | 直木太一郎氏 | 原田文穗氏 | 白川渥氏 | 池長孟氏 | 宇田道隆氏 | 牛尾健治氏 |
| (神戸市立図書館長) | (神戸市教育局教導課長) | (寶文館神戸支店長) | (日配神戸營業所配給課長) | (兵庫縣產業報國會) | (市民病院内科醫長、俳人) | (兵庫縣食糧營團理事長) | (神戸商大豫科教授) | (御影第二國民學校長、作家) | (池長美術館長) | (神戸海洋氣象臺長、理博) | (神戸銀行重役) |

山下氏

本日は皆様御多忙のところ御出席下さいまして大変有難う御座います。早速本論に入つて戴きますが、その前に一寸、本日の座談會の主旨を申し述べますことをお許し願ひたいのであります。

卒直に申し上げますと、讀書は戦力増強への寄與を中心目的としたものでなければならぬと信じます。これは直接であると間接であるとを問はず、戦時下に於ける讀書指導はこれを離れては存在しないと思ひます。

最近いろいろな娛樂面が壓縮された結果、青少年が享樂に走ると云ふことも考へられるのであります。が、讀書は適當なる指導に依つて不良防止にも大きな役割が果せるのではないかと思つて居ります。

次に推薦制度を繞つての問題であります。文部省や文協の推薦制度の外に、大阪市では町會文庫に市の推薦制度を用ひて居ります。本市に於きましても、必要性がありますならば、その設置方法を研究したいと思つて居ります。

書籍入手難に對する對策と致しましては、隣組文庫、町會文庫、工場文庫等の設置や、圖書館の貸出文庫の利用、その上に出来ることなら、この様な圖書室（三越六階文化圖書室のこと）を増設する等に依つて、解決してゆきたいと思つて居りますが、この點も充分論議して戴きたいと存じます。それでは直木さんに司會をお願いしておきますから、何卒よろしく願ひます。

直木氏

それでは御指名に依り司會者と云ふことにさせて戴きます。論すべき問題は澤山あると思ひますが、先づ今回の出版界の新體制である書籍の買切刷に就て日配の北阪さんからお話を願ひます。

北阪氏

既に新聞其の他で御存知のことゝ存じますが、いよ／＼六月二十一日から新刊書籍が全部買切制になります。この制度は小賣商が一たん注文した本は返品出来ない制度です。今度からあらかじめ本屋さんに注文しておかないと新刊書を手に入れることが出来なくなります。しかしそれでは小賣商を初め一般読者も困るので、日本出版會では讀書界の回覧板ともいふべき新刊弘報を月三回発行し、これを注文の手引とすることになりました。これは毎號約二百種の新刊、約百五十種の重版に就いて著者の閱歴や本の内容、定價、ページ數、發行部數を記載してゐて、大體新刊が發行される二十日以前に配布される豫定であります。つまり六月二十一日發行の第一號に載つた新刊書は七月十日ごろ發行される譯だが、發行部數の關係でこの弘報は當分の間、官廳、圖書館、發行所、出版會關係者、および全國一萬四千軒の小賣商へ一冊以上を配布するだけで一般読者の手に入らないから読者は小賣店へ行つて見るか、新聞や雜誌などの新刊案内を見て豫約注文をする外はないのです。然し豫約注文をして見ても實物が來て見ると豫想と違ふ場合もありませうし、本によつては實物を見なければわからないものも少くないので、別に読者の利用度の高い小賣店を全國の中で選び出して店内に見本陳列所を設け、發行所の希望が

あれば新刊書をそこに計畫する豫定もあります、併しながら新刊の全部が出るわけではないので、發行部數より豫約注文の多いやうな本は先づ陳列されないと思はれますね。

兎に角、新制度は初めてなので技術的な點で不充分、不満足な點は多々ありませうが、それは結果を見たとで漸次改善されて行くことでせう。

直木氏

戦時下の讀書指導は戦力増強が第一的だと云ふ唯今の課長さんのお話ですが、直接に結びつかなくとも間接的に戦力に貢献することも考へられる、これに關聯して産業青少年に對する讀書指導はどうであるべきですか。

門通氏

青少年輔導對策要綱の眼目は健全なる青少年及び不良化せんとする青少年、それと、すでに不良化したものゝ三段階に分け讀書の問題は、不良化する前の青少年を對象として取りあげてゐます。鍊成や警察的取締は、勿論時に應じて行はるべきですが工場としては生活指導の一端として、是非とも讀書の效果を利用すべきだと思ひますね。近く縣下を東、西、中部に分け、産報文化指導者調べを行ったところ、解答のあつた百七十六工場中、文化指導者六百八十九名、うち讀書指導の適格を有するもの三十七名で、内譯大學卒業生十名、この内三十五歳以下四名です高専卒業生十三名、残りが中等學校卒業生です。これに依つて見るも讀書指導者は文化指導者中の極く一部分にしか當らず、その地位も未だ係

長級で四圍の制肘が多くて齒がゆい思ひをしてゐるのではないかと想像されます。こんなところにも工場組織の缺陷があるのではないでせうか。

牛尾氏 讀書指導はむづかしく考へないで、明るい、氣持の轉換をはかるやうな、そして楽しみを與へる様な讀書指導を特に産業戰士などには考へることが必要ですね。一日の勤務から解放されてせめて夜だけぐらゐ、のびやかに頭を休めさせてやることです。講談本なんか結構だが読んで品性をそこなふやうなものは困る。例へば吉川英治氏の「太閤記」これは文協推薦になりましたが、それから矢田挿雲氏の「定本忠臣蔵」などは面白くもあるし、全く健全だと思ひますね。たゞ値段が少し高すぎる。岩波文庫のやうな安いしかも良い本がどん／＼出版されるといゝんですがね、いや書店にある安い本と云へば殆んど例外なしに下らぬものばかりで賣残りものが多い、また本を読むことに苦痛と云ふか、ある重荷を感じさせるやうなのは、やり方に缺陷がある。品性を失はず、しかも不知不識のうちに時局認識を昂めるのが指導の理想だと思ひますね。……(中略)……

直木氏 讀書の問題はそれ自體として單獨に取り上げられる事はなく一般文化の問題の一つとして、政治、經濟、軍事等の総合的指導方針の下に圖書の出版配給管理等の問題と並んで考へられなければならぬと思ひます。従つて戦時下出版配給等が戦時體制の下に置かれてゐる時、讀書も亦同じ總力戰體制

に移されるべきであつて、私は讀書の組織化、讀書の共同化、讀書の重點化と云ふ三つに分けて考へたいと思ひます。組織化と申しますのは、讀書人を地域的、職業的に縦横に組織化し之を假に讀書會と名付けるならばその實踐單位を二十人以内程度にして年齢、性別、其他の區分によつて多様多種に併立せしめ夫々或は從來の輪讀會の如く同一の書籍に依る共同研究を行ひ、或は又共同購入した書籍を交替に讀むと言つた事を行はしめ、概ね毎月一回の讀書常會を開催して讀書慾の振興と、正しき讀書態度を學ばせる様に努めることであります。

第二の共同化と申しますのは、例へば炊事の共同化、入浴の共同化が現實の問題となつてゐる時、讀書の共同化も當然であつて常會に於て購入すべき書籍を計畫的に決定し、又單に新に購入するもののみならず蔵書の公開と言ふことも取上げて共同の圖書室の建設に努めることでもあります。

第三の重點化と申せば、悪書の驅逐と不要書籍一讀の浪費等を避ける爲に書籍解説を一層精密にして且つ讀書本來の意義を考へて、眞に心の糧となる書の選擇に便ならしめる爲推薦を更に強化すべきだと思ひます。

山下氏 さうすると戦時下の讀書指導に就いてはどうでせうか。

直木氏 戦時下の讀書の指導に就ては先づ環境と設備に就いて考へねばならない。即ち讀書に對する時

間的並に體力的餘裕を如何にして與へるか更に讀書に適する場所の問題及讀むべき良書提供の問題があると思ひます。次には指導者に就いて考へねばならない、そして先づ讀書慾を振起する方法として讀書の習慣をつけしめる爲め多讀主義がとられるとしても結局は良書精讀に到らなければならぬ。更に讀後の整理、即ち讀後感の發表又は讀書日記をつけるところまで指導すべきだと思ひますね。……(中略)……

直木氏

馬を川ばたへ連れていつても飲みたくもない水は飲ませることは出来ぬ。ですから如何にして本を讀みたい氣持を起させるか問題ぢやないでせうか。

原田氏

學生の一部には映畫を見たり、喫茶店でレコードをきくことのみを文化的教養と心得てゐるものがあります。その對策として私は學校では讀書會を開いてゐますが、これも教師の方で熱意を示さなければ生徒の方はなかくついて來ない。いま三段階に分つて指導して居ります。第一段階は學校で開く一般的な會で、これには嫌がるものでもつれて來て讀書させる、次には時々教師が話もする、興味を覺えると教師の宅を訪れるやうになる、この學生には少し高いものを與へる。最後にはさらにその中で眞の指導者になりさうなものを選んで、教師の家で輪讀や討論をやらせる。この最後の段階まで來ればしめたもので、どん／＼積極的な指導ができます。この空氣をかもし出すことが大切だと思ひます。まづ讀書に興味をもたせること、白川さんのお話の通り最初は文學、藝術書が主となるでせうが、工場など

でも「忠臣蔵」から入門するにしても、やがてそれを通じて愛國の情をもたせるやうな導き方が肝腎でせう。

大學卒業者がどし／＼工場に入つて指導者となつて活躍してゐるのは喜ばしいことです。高い教養をもつ人が指導することは讀書部門では特に必要です。工場にしろ、學校にしろ究極するところ純粹な日本人としての強い魂を養ふことです。戦力増強も戦争に勝つこともこゝに究まるのではないでせうか。

白川氏

馬に例へてばかりではどうかと思ひますが、水を呑みながら馬には、ほしがるやうな水を與へる、かうゆう馬の嗜好や意欲を對象とするばかりの方法は充分検討すべきで、たとへ飲みながらない水でも與へてゆく指導方法も考へなくちゃいけないと思ひます。

原田氏

圖書室の整備擴充に就いて一言します。既設の圖書館を充實するのみならず、新に圖書館を増設して貰ひたいですね。そして新設の圖書館は勿論一般向きの良書を備付くる必要はありますがそれ以上、南方、科學、産業等の如き特種的なものとして貰ひたいですね。次に神戸市に於かれても現下の情況からは非共讀書指導をして戴きたいと思ひます。市独自の見解に立つ良書推薦も結構と存じます。又誌上讀書會も一法でありませう。これを町内會隣組等へ回覽させるのはどうですか。そして指導の標準は日本人としての一般教養と云ふ點に置かるべきですね。……(中略)……

池長氏

いつたいに図書館が少な過ぎますね。大倉山のがたつた一つと云ふのでは心細いです。さうかと云つて町内會、隣組のでは範圍が狭過ぎる、一つ市内いたるところに文庫をつくり、この文庫では南方の本ばかりを集め、あの文庫に行けば飛行機の本があると云つた風に専門別の違つた文庫をつくり、それ／＼専門の指導者をおくことにしてはどうでせうか。これはどなたも恐らく反對の人はありません。要は實行だと思ひます。色々な困難な事情があるでせうが、要は實行して戴きたいと思ひます。

直木氏 私の方の食糧營團では食糧に關する本だけを集めてゐます。いまのお言葉の様に街の文庫が風呂屋がどこにもあるやうな調子になればどんなにか愉しいこととせうね。思つただけでも確に愉快になりますね。併しさういふ施設は、池長さん、官廳だけに願つてもよいものでせうか、どうでせうかね。

池長氏 美術館を經營してゐる私の經驗からいふと、私立はとかく繼子扱ひにされてやり悪い。と云つて公設ばかりにするのも困難でせうから、民間でこのくらゐ（三越六階文化圖書室のこと）の部屋をつくり死蔵本の寄贈を乞うてやれば案外簡單かも知れませぬ。

直木氏 小説だけはどの文庫へ行つてもある。そして一つ／＼の文庫が専門的性格を浮び上らせてゐると云ふゆき方はどうでせう。

五十嵐氏 その御意見には賛成です。しかしその内容は文學偏重にならず、あくまで理科的、科學的なものが整へられて欲しいと思ひます。もう科學圖書館と云つたやうなものが出来ても良いころではありませんか。若し官廳では實行し得ずとしたら、これは篤志家の協力を乞へばできないこともないでせう。……（以下中略）……

山下氏 現在の推薦圖書には文部省のと文協のとありますが、お隣りの大阪市では市で優良圖書の選定をやり、之を町内會に市推薦としてすゝめてゐます。尤も神戸と違つて、已に町内會には五十以上の町會文庫が出来たと云ふことです。大阪市の推薦は、優秀なそして智的な市の吏員が委員になつてやつて居るのです。この點私は神戸でやるのなら、もつと委員の方を選定したく思ひます。少くとも優秀な民間の文化人の御参加を願ひたいと思ひます。さういふときには皆さんも委員になつて戴くやうに依頼するかも知れませぬ。

北阪氏 推薦圖書も賣れて居りますが大衆的なものは更に多く讀まれてゐる様であります。神戸市内の雑誌の賣行から見ると婦人物二十七・三％、大衆物二十五・四％、綜合時局物六・六％、兒童少年物二十四％と云ふ風になります。

直木氏 出版せられるものゝ總てが推薦に値するものでなければならぬのは當然で、この時局下推薦に値しない書物が出版されると云ふのはそれだけでも不合理です。私は何人が推薦するかと問題である

と思ひます。今日の推薦制に於ては學術書や學問的なものに偏する傾向があつて、もつと文藝方面、大衆の教養方面に擴充する必要があるんじゃないかと思ひます。尙新刊書のみを推薦ではなく昔からある書物を推薦し、良書は重ねて出版せしむることゝし、更に場合に依れば計畫的な分野に依つて出版の割當を行ひ同類書のみを氾濫を防止せしめ、必要書にして出版困難なもの例へば地圖類や技術に關する書籍等を刊行せしむべきであります。それと言ふ迄もないことではありますが推薦書が手に入り難いと言ふ矛盾を至急解決すべきであります。

従つて入手難に對する對策としましては、供給面に於ける對策としては出版の重點主義の強化と出版の計畫性を強化して良書を多量に出版し同類書を整理する外、單なる購買力の對象とせず公共的の機關に對する優先配給を實施すること等であり、需要面からは共同讀書の奨励と死藏圖書の供出即ち其の賣却又は貸出しを勵行せしむべきであらうと考へます。……(中略)……

直木氏 本を自分のものとして自分の家で讀まないと思ひますが、いま時ではあまりに功利主義的です。死藏本は公共施設へ寄附するなり賣るなりして欲しいものです。それと共同讀書の風習を確立する爲に、市民の皆さんが讀書界との結び付きを密接にし、單に書籍を集めて積んでおくだけではなく其の利用にも留意し、必ず適當な指導者を置いて購入、貸出しに注意させて讀書相談施設と

云ふやうなものを設ける必要があると思ひます。……(中略)……

直木氏 古典的良書の出版や簡素にして美しき體裁を備ふる書籍の出版や、或は又全家庭に必ず一本を備ふべき最良書の國家的大出版の斷行——一例を挙げますればヒツトラの我が闘争——と云つたやうなものですが、こんなものが欲しいですね。それでは最後に皆さんから最近讀まれたもの、あるひは古い本のうち一般教養向の良書を推薦して戴きませうか。

五十嵐氏 最近讀んだ句集では富安風生氏の「冬霞」がいゝと思ひました。また少し片寄つて一般向でないかも知れませんが富士川游氏の科學隨筆「歴史叢談」は内容があり他の追隨を許さないとと思ひます。

宇田氏 岩波文庫の「明治天皇御製集」それから岩波新書のやうな手軽なもので科學的なものやら病理的なものまでいろいろ叢書がおすゝめできるでせう。これは安價で結構と存じます。また「寺田寅彦全集」文學篇あゝ云つたものが科學的な考へ方を教へるうへに最も役に立ちます。文學的に書かれてゐるので一般にも親しみやすいでせう。

原田氏 愛國心を涵養し愛讀書として、どこにでも持つてゆける種類のもの、それゝが持つことが必要ですね。丁度外人が聖書を持つてゐる様にです。私は恒に 明治天皇御製集をありがたく拜誦して居ります。佐野一彦著「日本歴史の精神」これは啓蒙的ないゝ本で大變視野が廣くなります。

白川氏 九大教授佐藤通次氏の「生哲學」これはデイルタイの生の哲學なんかと違つて日本のむすびの哲學を創意ある筆致で描いた知識人のぜひ讀むべきものと思ひます。小山書店の「日本小説代表作全集」九卷まで重ねてゐますが内容的によく吟味され推獎できるものと思ひます。又丹羽文雄氏の「海戰」は丹羽と云ふ代表的な自由主義作家が古い型を投げ出して本當の日本人に建直りつゝある過程を示すものとして珍重すべく又注目すべき作品だと考へます。

牛尾氏 一般教養向としては次のやうなものを推したいと思ひます。夏目漱石全集、友松圓諦「人間と死」、林房雄「西郷隆盛」、大川周明「國史讀本」、吉川英治「太閤記」、安岡正篤「世界の旅」それと「清水芳太郎全集」です。

門廻氏 産報運動の指導理念を示す最高のものでして難波田春夫氏の「日本の世界觀」を私は特にあげたいと思ひます。

山下氏 日本人の情操を培ふと云ふ意味と日本精神を味はせるものとして近刊のものでは、三好達治氏の「風詠十二月」、會津八一氏の「渾齊隨筆」なんかは、しみじみとした良さを持つてゐるものとして推獎したいものです。特に前者は安價な點で一般教養としては絶好なものと存じます。

寺澤氏 圖書館で一番よく讀まれる本として三木清「哲學入門」黒田正利譯「ダヴィンチの隨想」本居

宣長全集、加藤完治氏の著作、和辻春樹博士の「船」吉川英治「宮本武藏」北玲吉「戦争の哲學」淺香未起の「南方交易論」松前重義氏の技術論もの、歴史傳記類では維新時代のものが喜ばれてゐます。文學では「萬葉集」現代小説では堤千代が人氣があります。

笠原氏 本を買ふ人もぐつと變りましたね、婦人がふえて、産業戰士も多くなりました。賣れるのは文藝、隨筆、小説、工學、宗教、修養の順で、ことに最近若い人の間に宗教、哲學熱が昂まり兒童物の増加が目立ちます。尤もこれは本屋の見た狀況ですが。

直木氏 それでは皆さん大變有難う御座いました。

(第二篇)

讀書に關する座談會にて(速記抄録)

主催 神戸市教導課

於 神戸三越文化圖書室(昭和一七、三、二)

語る人(順序不同)

- 勝山 勝司氏 (神戸學士クラブ文化部長)
- 森本 清氏 (辯護士)
- 岡久 渭城氏 (神戸史談會)
- 谷口 幹治氏 (雲中國民學校長)
- 直木 太一郎氏 (兵庫縣翼賛會常務委員)

- 加藤 恭太郎氏 (神戸三越支店長)
- 竹中 郁氏 (詩人)
- 佐野 一彦氏 (神戸商大助教授)
- 甲斐 軍喜氏 (神戸市觀光課長)

(前略)

竹中氏 青年が讀まないといふことは他に享樂物があるから讀まないのか、時間がないから讀まないのか、怠け心から讀まないのか、どちらでせうか。

森本氏 時間がないからですね。晝間主人に仕へて用事して、夜は青年團に出て來て種々なことをやつてゐますから。今までのやうに飲食物の豊富な時代であれば、喫茶店等にも行きますが。

直木氏 讀まないのに本が澤山出版され、そして賣れるのは不思議ですね。

森本氏 僕の目を着けて居る人達は讀まんない。僕は須磨の藤田男爵邸のライブラリを見せて貰つたんだが、藤田男爵のライブラリにこんなものがあるかと思はれるやうな程度の低いものがあるのですよ。何だか藤田さんの考へでは、あそこの青年團の爲にライブラリを作つてやると云ふつもりだつたらしいん

です。それであゝ云ふ本を買込んだんだが、藤田さんの都合で實現しなかつたんです。同族會で退けられたかなんかで實現しなかつたらしいですが、須磨としては残念な譯です。さう云ふ本がほつちらかしであるもんですから、中には世界に何冊と云ふやうなものもあるが、非常に程度の低い本があります。それを若主人が大部整理したらしいが、まださういふ本が澤山残つて居ます。私も青年團の幹部の人に二三冊やつたんですが駄目ですね。讀みませぬね。

直木氏 さう云ふ人に讀ますやうな適當な本がないのですか。それ共……

森本氏 讀む機會がないんですね。暇がないのですね。

竹中氏 讀書の癖を學校でつけて貰つてゐないと云ふこともあるでせうね。それからライブラリを利用する癖がないですね、小學校でも本を讀むと云ふ機會、本を讀むと云ふ癖をつける必要があります。

直木氏 そんな人が本を讀みたくなるほど良い本がないと云ふことも一つの原因ではないかと思ひます
(中略)

直木氏 つまらない本が澤山出来ることが讀書熱を阻害してゐると思ひます。

竹中氏 此の頃本屋の店頭に行つて見ると、本を買ひに行つてゐるものが皆行儀が悪いですね。本を買ふ時だけでなく、本を讀む時も行儀が悪いと思ひます。本を引出して元に戻さない。あゝ云ふことは道

徳心といふものを持つて居らないことの證據だと思ひますね。あゝ云ふことは我々の少年時代の本に對する心として許されなかつた行爲だと思ひますけれども……

直木氏 子供の時我々は本を手に入れるのに苦勞したから本を大切にしたんですが、餘り簡単に手にはいるとさう云ふ現象を起すと思ひます。だから非常に良い本を澤山作つて頂くことゝ、良い本を紹介といひますか、推薦することが必要ですが、時々我々には、例へば南方の農業についての良い本があると云ふことをきけば、直ぐそれを教へてやるんですがさういふ本がなか／＼手にはいりません。従つて人から良い本だとして推薦を受けたやうな本は買へないのです。然し他の本は澤山あるんですが、何とか良い本を澤山作つて、つまらないものを止めて頂くことに一般の輿論を起してほしいのです。(中略)

竹中氏 世の中のお父さんが全部、かういふものが子供に適すると云ふ知識のある方ばかりであればいいが、讀ませたいが自分にさういふものを選択するだけの能力のない人の相談に應ずる所がほしい。ところが、また本屋の番頭さん等に非常に本通があつた様に思ふが、最近の状態では、本屋の番頭さんに本を聞いてもさつぱりわからない。たゞ本を商品として扱つてゐるだけで、本の分類さへ判つて居りませんからね。

直木氏 あるかないかさへ判らないですよ。(笑聲)(中略)

勝山氏 どうも日本人ぐらゐの本を讀まう／＼としてゐる國民は少いと思ふね。それは非常に教育が普及してゐるといふところから來てゐると思ふが、もう一つは日本人がさう云ふ素質を持つてゐると思はれるね。

森本氏 皆本を讀みたがると云ふのですね。

勝山氏 僕は日本ぐらゐ新聞の廣告に本や雑誌の廣告をしてゐる國はないと思ふ。それから類推して日本人の本に對する關心は驚くべきものがあります。こんな國はどこにもないと思ふね。ロンドンにしてもニューヨークにしても、其の第一流の新聞に本の廣告がどれだけ出て居るか云へば、殆んど出て居らない。ロンドンやニューヨークの第一流の新聞には殆ど見當りやしない。ところが日本の大新聞と云ふ大新聞はもとより、田舎の新聞でも、大阪、東京の新聞でも、本の廣告を見ると驚くべきものがある。それが年百年中毎日々々三百六十五日、本の廣告が一番多いやうです。

竹中氏 それほど澤山ある本を見るときはどういふ選擇方法をとつてゐますかね。

勝山氏 實際本の廣告の多いのには驚くべきものがある。そして廣告料だつて安くはないと思ふが、あれだけの廣告をしてゐるからにはやはりマーケットがあるんですね。それで僕は外國人が來ると眞先に云ふのですが、外國人がロータリーに來るとお前達によいことを教へてやるが、東京に行つたらお前達

はわからないだらうけれども、ホテルのボーイに命じて、一週間分の大新聞を集めてどう云ふ廣告が毎日出てゐるか調べて見よ。それは本の廣告が一番多い。三百六十五日毎日さうだが、かう云ふ國が何處にあるかと云うてやるんです。去年、一昨年頃英國から來たものにさういふ話をしたら、それはいゝことをきいたから、是非集めたい。ところが自分もロンドンで或るパブリツシヤにきいたが、そのパブリツシヤ曰く、自分のところのパブリツシユする本で東京の或る一軒の本屋が賣る本の分量が世界中に賣る本の分量と匹敵する。其の本屋の名は忘れたと云つて居つたが、それはきつと丸善だらうと思つたね。それでお前の云ふこと嘘ぢやないだらうと云つてやつた。

岡久氏 それば慥かに良い傾向ですね。(中略)

直木氏 讀書と云ふことについて讀む方の側から讀む人の目的と云ふことを考へなければならぬと思ひます。唯今御話があつたやうに吉川英治氏の大關記を讀んで見ますと、あれは歴史上違つてゐるから讀ましてはいけないと云ふやうな意見も一部にあるんですが、其の本自體をあらゆる角度から見たら、種々缺點があるでせうが、讀む側から何の爲に讀むかと云ふ、本を讀む其の目的から、本の見方も相當考慮しなければならぬと思ひます。例へば先き程云つたやうに農村の青年に讀ますのはどういふ本が良いかと云ふことは、やはり一つ讀ます目的と云ふものがある譯です。頭を休ます爲の本と、研究の

爲の本と、種々ありますが、一つの本の出版と云ふことも、其の本の見方も、出版協會に對應して、民間の方でも亦かう云ふ本はかういふ人に讀ましたらよいとか、かう云ふ本が良いと云ふことを、これは出版された後でなければ判らないことであるが、かう云ふ風な立場から研究してそれを發表する機關をこしらへたらよいと思ひます。

竹中氏 ブックレビューをもつと盛大にやつて貰つて、これはかういふ階級に向く、かういふ事を明示してもらつて、かういふ本を讀みたいと云ふ人はブックレビューを見れば判る様に、本の案内ですね。

森本氏 前には帝大新聞のブックレビューが相當役立つてゐたのですが、この頃どうですかね。

勝山氏 僕は帝大新聞は見えてゐないが、日本では出版が旺んなのにブックレビューが賑はないが、外國ではあべこべです。ブックレビューはたしかに日本より旺んです。(中略)

岡久氏 今の青年が讀んで机を叩いて本當に躍り上るやうな本がないやうですね。

竹中氏 さういふローマンチックなものは、これから發生するでせうけれども、こゝ四、五年間は少なかつたですな。青年の心を昂揚さすやうなものは少いですね。

岡久氏 戦争に關したのも、歴史家としてなるほど結構だが、不朽の名作が一本位、心境を打つと云ふやうな、統制せられ制約せられた時代にふさはしい奴が出て欲しいと思ふね。(中略)

直木氏 本を讀んで感激にひたると云ふが、近頃の本は讀むのではなく、見る本になつてゐるのではありませんか。恐らく讀んで感激を起すやうな本が少くなつてゐるやうです。昔の本は、一冊あつてそれを大勢に讀んで聞かすと云ふ本だつたが、この頃は各自が本を持つて見るのではないですか。

竹中氏 それは文體にも關係がありますね。昔の漢文と違つて此の頃の本は靜かに讀んでしまふのがふさわしいやうな文體になつて居りますから。

直木氏 先生が本を一冊持つて、それを一人立つて讀んで皆にきかせると云ふことになれば、相當今言つた岡久さんの風にならなく共、その傾向に本が出て來るんではないかと思ひます。

竹中氏 私がやつてゐる新體詩の分野は視覺に訴へるやうなものばかりだつたが、最近詩の朗讀と云ふことが必要になつて、耳からも傳達しなければならぬと云ふので、詩の革命が起りつゝあるけれども大體要求があれば作家の方でも、さう云ふ風にする用意があります。だから小説の方でも皆に讀んで聞かせる必要があれば、小説の作家もさう云ふ氣になると思ひます。

直木氏 大體本と云ふものは、一人が讀んで聞かすべきものか、皆が一冊づつ持つものでせうか。

勝山氏 それは兩方ですよ。一人讀むのと對象を置いて讀むのとあります。作者も誰も相手方を持たずに書くのと、相手方をもつて書くのがあると思ふ。(中略)

直木氏 種々な種類のものが出版せられて居るけれども、全體的に釣合がとれて居らない様ですね。地
圖なんかと云ふものは大變少いやうですが、さう云ふ風に全體に出版の釣合が片寄つてゐるのではな
かと思ひます。これはもう少し絶對的に形を整へる必要がありはしないかと思ひます。

例へば大東亞共榮圏内のことを調べようと思つても完全なものがないから、さう云ふ場合には片一方の
小説を押へても紙をかう云ふ方に廻してやる。其の中で選擇は自由であるけれども、さう云ふ大きなも
のは、全體の釣合を此の際是非とらなければならぬと云ふ必要が全般の出版界にあるのではないかと
思ひます。今のところ片一方に片寄つてゐる爲に、本當に必要なものがないと云ふことになつてゐます
全體が豊富な時はよろしいが今日の状態では、さう云ふ風に片一方に片寄つて必要なものがないと云ふ
状態ですから、これは嚴重な統制が必要だと思ひます。此の本がよいか悪いかよりも、全體的に見て、
此の種類の本は多過ぎるからこつちの方を出版させると云ふ風に出版協會の方でやると云ふやうなこ
とは考へて居らないんですか。

加藤氏 そこ迄は考へて居らんでせうね。

竹中氏 推薦圖書によつてさういふ事はアドバイスはやつてゐますがね。製作の方はさう云ふことはあ
りません。(下略)

營團の讀書施設

前に述べた通り、最近は、特に急速に膨脹した工場などで、教養鍊成の方法として、讀書指導を飛躍的
に強化しようとして、圖書の購入に大童の様子であります。本營團では幸に理事長の慧眼によつて、す
でに配給組合當時から準備が進められてゐましたので、營團移行後間もなくその施設が實現を見ました。本
の手に入りにくい此頃では一步を先んずることが百歩を先んずることになります。他所が手を着けぬ前
手をつけるといふ事が實に大きな開きを招來するのです。御蔭で隨分澤山の本が既に集められました。こ
れからもどし／＼と集められます。しかし本を集めるといふ事は何でもない事の様ですが、實は中々どう
して、存外苦勞なものです。本屋へ行つて、又は新刊廣告を見て、どし／＼注文さへすればよい様に思へ
ませうが、金と暇とだけではいけません。高い選書眼と、書物に對する深い愛と、そして熱情と體力とが
必要なのです。營團はこの點でも恵まれてゐます。このやうな條件を揃へてゐられる法律顧問平佐先生が
この難しい役を喜んで引き受けられたからです。先生の御蔭で良い本がどつさり集まりました。集まつた
が集め放しでは勿論問題になりません。分類整理といふ仕事が一骨折りの事です。これには専門的な技

能が必要で、馳け出しの素人が誰でも飛び込むといふ譯に行きません。こゝでも營團はちゃんと適材をもつてゐました。まるで打出の小槌のやうに、欲しい人がすぐに出て来るのだからすばらしいです。研究室の榎本鐵雄氏その人です。図書館で長く鍛へて來た腕を揮つて、どし／＼整理せられてゐます。分類法としては一番進歩したと云ばれる「十進分類法」を採用し、特に専門の食糧關係では細々分類項目を使つてゐます。本が集まつて整理せられたら、今度はこれを利用する段取りになります。讀書會運動は無論この問題への一つの解答なのですが、こゝでは營團のもつてゐる施設とその状況について簡単に述べて見ます。

一、食糧文庫（昭和十八年二月開設）

これは營團の食糧研究室の附屬圖書室でありますから、食糧に關する圖書を中心にした研究用専門文庫です。この種の蒐集は他に類例のない特色のあるものと信じます。又是非さうあらしめたいと望んでゐるのです。現況はざつと次の通りです。

所 在 營團内食糧研究室（七宮ビル四階）
藏書部數 約三〇〇〇部
閱覽要領 平日營團執務時限中開室 室内閱讀自由 帶出貨出は理事長許可あるもの

この文庫は特に専門的な、世間に珍しいものですから、部外者でも食糧問題研究の爲に希望があれば、これを開放することにしてゐます。この場合は適當な紹介者を必要とします。

尙近く藏書目録を作成して頒布致しますから、充分に利用して頂けると思ひます。

二、巡回文庫（昭和十七年十一月六日開設）

廣地域に散在する營團員の讀書施設として考へられたもので、歴史からいふと營團の讀書施設としては一番古いものです。その趣旨は次の通牒に明らかです。

巡回文庫創設利用ニ關スル件

首題ノ件ニ關シテハ豫テヨリ着施シ急速ニ之レガ實現ヲ期スベク銳意準備中ノ處今般準備完ク整ヒ營團ノ輝シキ發足ト共ニ開設ヲ爲スニ至リタル次第ニシテ本文庫ハ營團ニオケル職員及従業員ニ、躍進日本ノ國民組織再編成ノ實踐部隊タル實力ヲ獲得セシムル目的ヲ以テ巡回文庫ヲ創設シ、讀書ノ習慣ヲツケ教養ヲ高メ業務餘暇ノ善用ニ資スルコト、致候 就テハ別記目録ノ書籍ヲ選定シ貴所へ送附回覽致候間是非叙上ノ目的貫徹ノ爲メ充分御利用相成度尙貸出ニ就テハ別紙事項参照セラレ遺漏ナキヲ期セラレ度

昭和十七年十一月六日

關係各出張所長殿

理事長名

かうして開設せられました。後昭和十七年十二月十五日からは本部員にも貸出すことになり、本部、出張所、支部を通じて盛んに利用せられてゐます。この概要は次の如くです

イ、出張所、支部への文庫貸出延回数

(自昭和十七年十一月六日 至昭和十八年八月末日)

| | | |
|--------|------|--------|
| 文庫貸出回数 | 貸出冊数 | 閲讀延人員 |
| 一一一回 | 六六〇冊 | 一、三二五人 |

ロ、本部に於ける利用状況

(自昭和十七年十二月十五日 至昭和十八年八月末日)

| 月 | 男 | 女 | 計 |
|--------|-----|-----|-------|
| 十二月 | 一六人 | 一人 | 一七人 |
| 十一月 | 三六 | 三 | 三九 |
| 十月 | 四一 | 七 | 四八 |
| 九月 | 一〇八 | 四三 | 一五一 |
| 八月 | 一一三 | 七九 | 一九二 |
| 七月 | 一一三 | 一一六 | 二四八 |
| 六月 | 一一三 | 七八 | 一九一 |
| 五月 | 八九 | 七五 | 一六四 |
| 四月 | 一一〇 | 七四 | 一九四 |
| 三月 | 七六八 | 四七六 | 一、二四四 |
| 合計九ヶ月間 | | | |

又その讀書傾向を本部について見ますと、やはり小説類が斷然多く、傳記類がこれに次ぎ、堅いものは餘り讀まれて居ない様です。これも讀書の初歩程度においては致し方もありますまいが、將來強力な讀書

指導の必要が痛感されます。吉川英治作「親鸞」が歴倒的に多く讀まれて居るのは戦時下人々が何を求め
てゐるか吾々に示唆するものがある様に思はれます。

| 著者名 | 書名 | 貸出回数 |
|-------|------|------|
| 吉川英治 | 親鸞 | 四七回 |
| 尾崎士郎 | 何處へ | 二七 |
| 丹羽文雄 | 闘魚 | 二一 |
| 横光利一 | 旅愁 | 二一 |
| 舟橋聖一 | 男 | 一七 |
| 山本有三 | 眞實一路 | 一六 |
| 堤千代 | 再會 | 一五 |
| 吉川英治 | 魔粧佛身 | 一五 |
| 齋藤瀏 | 獄中の記 | 一五 |
| 富田常雄 | 姿三四郎 | 一四 |
| 大庭さち子 | 新しき風 | 一四 |

| | | | |
|--------|-----------------|--------|----|
| 石川達三 | 武者小路實篤 | 風樹 | 一三 |
| 武者小路實篤 | H・バイコフ 新妻二郎譯 | 楠木正成 | 一二 |
| 下村湖人 | 下村悦人 | 次郎物語 | 一二 |
| 下村悦人 | 丹羽文雄 | 血槍秘文 | 一二 |
| 丹羽文雄 | 石川達雄 | 流れる四季 | 一一 |
| 石川達雄 | 山中峯太郎 | 結婚の生態 | 一一 |
| 山中峯太郎 | 谷崎潤一郎 | 西郷隆盛 | 一〇 |
| 谷崎潤一郎 | 通俗教育普及會篇 | 春琴抄 | 一〇 |
| 阿部知二 | 阿部知二 | 赤誠忠錄 | 一〇 |
| 阿部知二 | 大迫倫子 | 旅人 | 一〇 |
| 大迫倫子 | 佐々木邦 | 娘の眞實 | 一〇 |
| 佐々木邦 | | お互ひの青春 | 一〇 |

(十回以下略)

さてこの文庫についての現況は

所 在 營園調査課（主務課）

蔵書部数 約二五〇〇部

閲覧要領 次に記載した「巡回文庫貸出方法並注意事項」「巡回文庫圖書帶出案内」参照

◆巡回文庫圖書貸出方法並注意事項

イ、圖書目録作成

圖書目録を作成し、出張所支部職員、従業員に配付し其の申込に依り貸出を爲すこと

ロ、圖書貸出期間

(1) 本部より出張所支部への貸出期間は三ヶ月とす、但し必要に依り期間を延長することを得

(2) 出張所支部に於ては右期間を考慮し、適宜圖書に依り貸出期間を定め貸出を爲すこと

ハ、閲覧名簿並に閲覧圖書統計表の作成

圖書閲覧者名簿を作り（閲覧者名簿用紙本部より送付）閲覧圖書統計表を作成の上、本部調査課宛報告すること

ニ、圖書貸出の範圍

圖書を男子用、女子用となす

女子用は女子従業員のみならず、職員従業員の家族の爲にも貸すものとす

ホ、其他注意事項

(1) 圖書の取扱は鄭重にし、汚損、紛失等に注意すること、若し紛失したるときは辨償の責を負ふこと

(2) 文庫の事務は調査、地方兩課に於て取扱ひあるに付連絡せられたし

(3) 文庫函到着したるときは直ちに圖書閲覧原簿と照合の上、領收證を本部調査課宛送付すること

(4) 文庫の鍵は完全に保管し紛失等せぬ様注意すること

(5) 返函の際は必ず圖書目録と照合し荷造を充分になし、本部調査課宛に返送すること

◆巡回文庫圖書帶出案内

一、圖書閲覧資格

兵庫縣食糧營園本部職員従業員は手續をして圖書を帶出し閲覧することが出来ます

二、帯出閲覧期間

帯出閲覧期間は十日以内であります

三、帯出閲覧冊数

帯出閲覧の圖書は一冊であります

四、継続閲覧

同一圖書を十日以上引続き借覧希望の時は借換の手續を願ひます

五、返納期日

返納期日は嚴重にお守り下さい

六、取扱上の注意

閲覧圖書については次の事柄を堅くお守り下さい

(イ) 紙の端を折つたり

(ロ) 文字を書き込んだり

(ハ) 唾をつけて紙を撥ねたり

(ニ) 火鉢の上で讀んだり

せぬ様、いつ見ても氣持の良い様大切に願ひます

(ホ) 圖書を汚損又は紛失等の場合は直ちに係員迄お届け下さい

(ヘ) ホの場合は相當の代價又は代品を以て辨償願ひます

三、修練文庫 (昭和十八年八月七日開設)

本部の女子従業員には前から情操教育として全員に茶道、華道の稽古が課せられて居り、又營團の修練道場では有志團員の書道、謡曲などの稽古が行はれて居りますが、こゝに書道、茶道、華道、能樂等所謂日本諸道を中心にした趣味的修養の圖書を蒐めて、さゝやかな修練文庫を開設しました。状況は次の通り

所 在 神戸市長田營團修練道場内 (鍊成課主管)

藏書部数 約二五〇部

閲覧要領 次に記載した「修練文庫圖書貸出案内」参照

◆修練文庫圖書貸出案内

イ、閲覧者

営團員は誰でも所要の手續をして圖書を借出して閱覽することが出来ます
ロ、閱覽冊數

同時に借出す圖書は一冊に限ります

ハ、貸出日及び時間

毎週火曜日、水曜日、木曜日、金曜日の午後七時より午後九時まで修練道場で錬成課員が扱ひます

ニ、貸出期間

期間は一週間ですが、引続き閱覽を希望せられるときは手續をすれば引續いて閱覽することが出来ます

ホ、返納

定められた期日に確實に返納して下さい

ヘ、手續

修練道場に備付の用紙に圖書名、所屬名、氏名を書いて借受ければよいのです

ト、圖書取扱上の注意

(1) 紙の端を折つたり

(2) 文字を書き込んだり

(3) 唾をつけて紙を撥ねたり

(4) 火鉢、ストーブの上で讀んだりせぬ様いつ見ても氣持の良い様大切に取扱ひ下さい

(5) 圖書を汚損又は紛失等の場合は直に係員まで御届け下さい

四、瑞穂文庫（昭和十八年九月十一日開設）

食糧研究には直接の関係はないとしても他の研究資料として基本圖書としての價值ある得難い圖書を五色山にある營團瑞穂寮に移管しました。唯今の所では全國主要圖書館にても持合せない高價貴重本である「大日本史料、東京帝大文學部、史料編纂所」を備付けて居ります。又近く同所編纂の「日本古文書」もこの文庫に異彩を放つことになる筈です。

五、圖書管理（食糧研究圖書部）

さて以上數々の文庫の圖書を買入れたり、整理したりする仕事は食糧研究室の圖書部がこれに當ります

その内容をも御紹介して置きませう。

圖書整理について

現在研究室に備付けてある圖書は次の様な順序で整理保管致してゐます。

- 一、圖書の選擇
- 二、圖書の購入決定
- 三、購入圖書を受入順に整理棚に配列
- 四、購入圖書の落頁、重複轉倒、破損等の點檢
- 五、事務用カード（著者名カード目録、書名）
閱覽用カード（著者名カード目録採用）を記入作成
- 六、圖書の分類（日本十進分類法採用）
- 七、函架カード作成
- 八、カード及レベルに分類記號を附す
- 九、圖書原簿へ記入登録す

- 十、圖書及カードに登録番號を附す
- 十一、圖書にレベルを貼附す
- 十二、圖書に藏書印を捺印
- 十三、整理完了圖書を書架の各部門に配列整頓す
- 十四、整理完了事務用、閱覽用カードを各部門別にカード函へ著者名又は書名を五十音順に挿入する
- 十五、研究閱覽許可
- 十六、圖書印刷、分類、書名、目録の編纂

442
/

刊既書叢營食庫兵

- (一ノ輯一第) 定規諸團營糧食縣庫兵
- (輯二第) ていつに團營糧食縣庫兵
- (輯三第) 説解の部務業一第と團營
- (輯四第) てい就に所談相婚結縣庫兵團營糧食
- (輯五第) [一の其] 究研務業の人團營

昭和十八年十月十五日印刷
昭和十八年十月二十日發行
〔非賣品〕

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 編輯兼 發行人 | 神戶市兵庫區宮前町二九 兵庫縣食糧營團 理事長 直木 太一郎 |
| 印刷人 | 神戶市兵庫區松屋町二四 德山 正雄 |
| 印刷所 | 神戶市兵庫區松屋町二四 兵庫縣食糧營團印刷工場 |
| 發行所 | 神戶市兵庫區宮前町二九 兵庫縣食糧營團 |

(西兵五六)

終

